



Light Up Rotary

第2780地区
大磯ロータリークラブ



2014～2015年度RI会長
ゲイリー-C. K. ホアン

1. 真実かどうか
2. みんなに公平か
3. 好意と友情を深めるか
4. みんなのためになるかどうか

★事務所：神奈川県中郡大磯町国府本郷546大磯プリンスホテル内 TEL：0463-61-1111(木) TEL/FAX：0463-36-2255

★例会：毎週木曜日 12:30～13:30 大磯プリンスホテル TEL：0463-61-1111 FAX：0463-61-6281

会長 守屋 紀忠

会長エレクト 片野 一雄

幹事 原 千明

第2296回 例会

平成26年9月11日 (晴) No.10

■司会：大藤 勉

■点鐘：守屋 紀忠

■合唱：我等の生業

◇プログラム・9月18日：夜間例会、新会員歓迎会・9月25日：加藤がバー補佐

◇出席報告

例会	会員数	出席数	出席率	メイクアップ	修正出席率
2296回	19(17)	10	58.23%	—	—
2294回	19(17)	12	70.59%	—	—

◇欠席者(7名) 小林、宮澤、石山、片野
太田、鈴木、原卓さん

◇メイクアップ(0名)

◇敬老の日お祝い：笹尾政儀さん



◇おめでとうございます



誕生日祝：
太田知加子さん
(9/5)
皆様有り難う
ございます。と
っても嬉しいで
す。これからも
宜しくお願い致
します。

私はロータリークラブに入会して40年になります。50歳で入会しました。初めはロータリークラブというものがよく分からなかったんですが、ロータリークラブに入っていれば何か社会のために尽くせると思い、50歳になったから入会させて貰おうと、とうとう40年経ちました。この年まで健在で来られたことは本当に有り難いと思っています。この年になって余りクラブに貢献出来ないと思いますが、これからも皆さんのお力添えを頂いてついて行きたいと思っています。今日はお祝いを頂きまして本当に有り難うございました。

◇大藤 S A A：本日のメニューは和食、お寿司と天ぷらです。

◇会長報告

本日は9月11日、日本では二百二十日の台風シーズンです。又アメリカでは厄日=9.11テロ事件=です。台風については地球温暖化で大型化し、被害が多発していますので気をつけましょう。

守屋 紀忠会長



又 Deng 熱患者が90人まで増加しています。代々木

公園へ行ったことのない人も罹っています。注意しましょう。

理事会報告：

- 1. 地区大会例会変更：10/16→10/19
- 2. 11/20の例会を財団奨学生卓話のため 夜間例会に変更します。
- 3. 敬老祝は今年から85歳以上に変更しました。(プリンス・チケット)
- 4. ガバナー公式訪問10/9スケジュールを 決定したので、配布します。

ガバナー公式訪問時、会長・幹事懇談会の 時に片野さん、河本さん、百瀬さんに同席 依頼しました。

例会後1時間ガバナーとの懇談会をコーヒ ー&ケーキを頂きながら開催します。

- 5. 宿場まつり、前年通り協賛金、落語家招 聘等の経費11万円をスマイルボックスか ら支出します。

◇幹事報告

原 千明幹事

回覧：

- ・地区指導者育成セミナーのご案内
- ・地区大会プログラム・エクスカージョンのご案内
- ・秦野名水RC活動計画書

連絡事項：

- ・欠席の連絡は例会前日の正午までをお願いします。
- ・9/18二次会会場=ラウンジ=モロキニも用意 致します
- ・11/9大磯宿場まつり：大磯落語
一落語家は春風亭昇乃進(真打)で決定しま した。
- ・11/13の例回を宿場まつりに振り替えます。

◇一言：大磯の歴史

井上浩吉さん

あわたらやま
泡垂山：泡垂山は何処にあるかご存じですか？殆どの方は知らないでしょうが、現在の湘南平の南斜面、本来はすべてを泡垂山といっていたのですが、持ち主が平塚に変わった途端に名称が変わりました。



鎌倉時代に鎌倉武士が大磯に遊びに来る=大きな遊郭が山王町にあった=鎌倉から馬で来る。1時間ちょっとで大磯まで来たんですが、その時若い侍は一気に山に登るんです。ところが馬は疲れて泡を吹く。そこで水はないかと探したら、偶々現在の湘南平の

大磯よりのところに湧き水が出ている。その湧き水を自分も飲み、馬にも飲ませたという。これが現在、「十郎のすすり水」という名前で残っている。当時馬が泡を吹きながら山を登るので、付近の人がこの山を泡垂山と呼ぶようになった。

そのまま明治まで泡垂山なんですね。ところが明治20年代になると、医者で杉原惣次郎という人が大磯にやってきまして、千畳敷に登った時に此処を平にして運動場が出来るのではないかと自費で整備しまして、運動場を造ったという石碑が大磯寄りの泡垂山に出来、その後町の人が千畳敷というようになりました。

戦後、持ち主が平塚住民になった途端に平塚市が湘南平という名称をつけた。泡垂山、千畳敷、湘南平と言うように大磯の山が変遷を重ねたというお話です。

杉原惣次郎先生のお話は次回に続きます。

◇委員会報告

☆スマイルボックス

太田 知加子さん

- ・守屋 紀忠さん：大藤さん、卓話よろしくお願ひします。笹尾さん長命おめでとうございます。太田 さん誕生日、おめでとうございます。
- ・笹尾 政儀さん：太田さん誕生日祝を祝します。大藤さんの卓話楽しみにして居ります。
- ・百瀬 恵美子さん：笹尾さん敬老祝いおめでとう!太田さん御誕生日記念卓話楽しみです。
- ・田中 敏治さん：笹尾さん、おめでとうございませす。これからもお元気で、ご指導お願ひします。太田さん、お誕生日おめでとうございませす。大藤さん、卓話宜しくお願ひします。
- ・太田 知加子さん：笹尾先生、敬老の日おめでとうございませす。大藤さん卓話楽しみにしてお居ります。本日はお誕生日祝ありがとうございます。これからもよろしくお願ひいたします。



☆河本親秀・クラブ研修委員：皆様にパンフレット2冊お配りしました。



1冊は「ロータリー—あなたも新しい風に」、もう1冊は「ロータリー・世界と日本」です。これは「一般社団法人・ロータリーの友」が新会員やロータリ

一に関心を持つ人々に向けて作成されたものですが、ベテラン会員も今のロータリーを知るのに非常によい資料ですので、皆さんにお配りしました。友人・知人或いは会員増強用にもお使い下さい。

◇ 卓 話

◆◆◆私の家造りと日本の住宅◆◆◆

大藤 勉さん



昨年7月にロータリーへ入会し、今回2度目の卓話となります。

私は9年ほど前に自宅を建てましたが、その時に建物について少しばかり勉強しましたので、私の家造りと日本の住宅に関して今回お話したいと思います。

みなさんは、すでに終の棲家をお持ちでしょうけど、これから家を建てるお子さんやお孫さんなどへの参考になればと思います。

まず私が家を建てるにあたり、どのような家がよいか検討するため、住宅展示場へ行き、いろいろなハウスメーカーの建物を見ました。平塚、秦野、小田原の3つの展示場をまわりましたが、どうも自分の建てたいと思える家がありませんでした。

そんな中、以前に新聞ちらしでみた木の家、無垢の木を使った家のことを思い出しました。そのちらしを見たときに、いつか自分が家を建てるとしたら、こんな無垢の木を使った家がいいなあといったことを思い出しました。

家内も木の家にすることについて賛成してくれましたが、OMソーラー住宅に興味があったようで、浜松にあるOMソーラー協会へ資料請求しました。そうしたら、その協会へ加盟している県内の工務店からのアプローチがいくつかありまして、驚いたことにいずれの業者も無垢の木を使った家造りで、非常に興味深いものばかりでした。最終的にその業者の中から建築する業者を選び、OMソーラーの家

を造りました。

ここでOMソーラーについて、少し説明したいと思います。

OMソーラーを簡単に話しますと、太陽熱を利用するもので、夏はお湯を作り、冬は暖房に使うシステムです。屋根にソーラーパネルを設置します。一見すると太陽光発電と間違われますが、発電はしません。暖房を使用しないときは、お湯を作ります。冬は暖まった熱を屋根裏の機械を使って、床下にあたたかい空気を送り込んで、床下から部屋に暖かい空気を出します。設置費用はかかりますが、日々の電気代やガス代が安くなり、地球環境に少しやさしい家となります。

床暖房ですと、床がかなり暖かくなりますから、無垢の木では反ってしまう可能性があり、必然的に加工した床材を使用しています。一方、OMソーラーの床暖房は熱いというより、太陽熱を取り込んでいるだけですので、ほんわかあたたかいといったイメージで、反対に加工した木を暖かくするには、不十分です。

そういうことから、OMソーラーと無垢の木の相性はいいということだと思います。

無垢の木は、あたたかみがあって、素足で歩くとても気持ちがいいです。冬でも、加工した木と比べると、冷たさがすごく違います。私は寒い時期にスリッパを少しの間使用しますが、家内は一切履きません。以前の家では、考えられないことです。一方、当然欠点があります。傷はつきやすいです。物を落とせば、へこみます。表面に保護材を塗ってなければ、水滴でもシミになります。因みに、うちでは洗面所・台所以外は基本保護材を塗らずにそのままの状態です。無垢の木が良いか、加工を施した木が良いか、

どちらが良いかは、好みですね。

次に、私が最もこだわったのは断熱材についてです。家造りではとても重要なことだと思うのですが、日頃、あまり話題になることが少ないように感じます。

日本では木造建築の歴史は、法隆寺などの寺社仏閣をみてもお分かりのとおり、すごく歴史があります。しかし、こと断熱になると、戦後に出てきたことなので、歴史は浅いです。日本では湿気対策が必要で、結露の問題があります。吉田兼好の徒然草には、「家は夏を旨とすべし」家は夏向きに建てるべきだいうくだりがあります。日本での家造りは、昔か

ら通気性を重要視してきました。ですから、冬の冷気を室内に伝えにくくする工夫はあまり発達してこなかったということだと思います。

そして、断熱材といえばごく最近までは、グラスウールでした。しかし、このグラスウールや同じようなロックウールは、価格は安いのですが、調湿性がなく、結露する心配のあるもので、壁の中に入り込んだ水蒸気を取り込み、カビとかダニを発生させる原因になります。また時間が経過すると断熱性能が著しく低下するという指摘があります。実際に解体現場で、壁の中で小さく丸まって、黒ずんだ状態となっているグラスウールの写真を掲載しているものを何枚か見ました。そうしたことから、高いお金を出して、人生で1度しかない家造りで、このグラスウールやロックウールを絶対に使いたくないと思いました。では他にどんな断熱材がいいのか、すごく悩みました。

一時は雑誌に載っていた断熱材を使わない板倉の家というものも考えましたが、まさか断熱材をいれないわけにはいかないしと、いう状態でした。

外張り断熱、羊毛断熱、炭化コルクなどを検討しましたが、どれも採用する決断までには至りませんでした。そうした中、ある工務店の社長さんに話したところ、新聞紙を粉砕したセルロースファイバーという断熱材を紹介されました。調べてみると、セルロースファイバーには、水蒸気を吸ったり吐いたりする調湿機能があり、たとえ壁の中へ侵入した水蒸気を吸っても、吐くことで断熱性能の低下を防ぐことができるということでした。また、この工務店では、断熱材は基本的にセルロースファイバーを使用しているとのことでした。この社長は、家造りに関することに常に勉強している人で、なによりも良い家を建てるという信念を持っているのを強く感じました。信頼のおける工務店だと思い、最終的にこの工務店に建築を依頼しました。

自宅を新築したあとで、建築関連の人にセルロースファイバーについて尋ねても、あまりご存じの人はいませんでした。湿気の高い日本での断熱について、業界の人、家を建てる人はもっと勉強すべきではないかなと、9年経ったいまでも強く思っています。

続きまして、最近読んでおもしろかった**本を一つ紹介します**。木に関することで繋がります。キャッチコピーが「発売1か月で10万部突破」とありますので、すでに読まれた方も、もしかしたらいらっしゃるかもしれませんが、「**里山資本主義**」という新書版です。書いたのは、藻谷浩介氏とNHK広島取材班です。藻谷浩介氏は、数年前にベストセラーと

なった「**デフレの正体**」を書いた人で、たまに古館さんの報道ステーションにコメンテーターとして出演しています。読む前からエネルギーに関するものであることは知っていたのですが、本の題名の「**里山**」だけでは到底エネルギーをまかないきれないであろうと思ってあまり期待していませんでした。しかし、特にオーストリアの森林事業の事例にとっても感動しましたので少しご紹介します。

森林事業とエネルギーが結びつきませんでした。オーストリアでは製材時に発生する木くずを使ったバイオマス発電というものを広く利用しているようです。また、かんなくずを筒状に固めたて、燃料とするペレットも作られます。驚いたことにオーストリアの第2の都市の郊外の町では、普通は液体を運ぶタンクローリーで、ペレットを個人宅へ運びます。そしてペレットを貯蔵庫に流し込み、別のホースで貯蔵庫内のペレットの燃えかすを吸い上げるのだそうです。ペレットボイラーは石油ストーブより高額ですが、購入時に補助金を出して普及を進めているということでした。さらにオーストリアの別の地方都市では、バイオマス発電を利用し、エネルギーの受給率が70%以上になっていると掲載されていました。きくずを利用するには、それだけ木材を利用しなければならないのですが、今ヨーロッパでは木を加工して作る集成材、CLTというそうですが、CLT建築が増えているようです。このCLTは非常に硬く、コンクリート並みの強度を誇るそうです。私が家を建てる時の記憶では、日本の木造3階建は、やはり集成材を利用したSE工法であれば建てられるということであったと思いますが、オーストリアでは2000年にそれまで木造では2階建てまでしか建てられなかった法律をいち早く改正し、木造で9階建てまで可能に変更したそうです。このCLT建築により、オーストリア以外でも、ロンドンで9階建てビルを、また日本と同じように地震の多いイタリアでは地震にも強いことが立証されて13階建ての建物が登場するとあり、ヨーロッパでの建材の生産量が伸びているということでした。

日本では、まだ3階建て以上の木造建築には、建築基準法上の制約が多いそうです。数年前に「公共建築物等における木材の利用の促進に関する法律」が出来て、公共建築物等の木造化が進められているようですが、その割合はまだまだ少ないと指摘していました。良いと思われることは、日本でも、どんどん出来るようになると思います。そして、木を使用するバイオマス発電が、各地で増加すると良いと思います。今回紹介いたしました。